9月のてがたんにご参加いただきありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。
次回10月のてがたんは10月13日(土)で、テーマは「ヒヨドリの渡り」です。
市民スタッフのみなさま、次回の下見は10月7日（日）です。

9月の観察コースと内容

●コース：鳥の博物館→香取神社→藤棚

●観察日時と天気：2018年9月8日 (土) 10:00～12:00　晴れ

●参加人数：17名（大人14名、小学生以下3名）

●市民スタッフ：6名　(**竹本周平**、**石原直子**、伊東茂子、木村稔、小泉伸夫、弘實さと子)

●鳥博職員：1名　(小田谷嘉弥)

観察した生き物の記録（下見を含む）

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】
カモ科：カルガモ／カイツブリ科：カイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：ダイサギ*、チュウサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ツバメ科：ツバメ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ムクドリ科：ムクドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／アトリ科：カワラヒワ（声）
家禽や外来種：コブハクチョウ（カモ科）、ドバト（ハト科）

【地上の動物】
昆虫以外の節足動物：オカダンゴムシ、ワラジムシの仲間、ゲジ、タマヤスデの仲間、マクラギヤスデの仲間、キレワハエトリまたはウデブトハエトリ、ジグモ、ジョロウグモ／環形動物：シマミミズ、フトスジミミズ／陸産貝類：キセルガイの仲間、ミスジマイマイ*

【両生爬虫類】
ヒガシニホントカゲ、ウシガエル

【昆虫】
チョウ目：サトキマダラヒカゲ、ヤマトシジミ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、トビイロスズメ（幼虫）、セスジスズメ（幼虫）、モンクロシャチホコ（幼虫）、ボクトウガの仲間？／トンボ目：コシアキトンボ、シオカラトンボ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ／ハチ目：クロヤマアリ、トビイロケアリ、キイロスズメバチ、ツチバチの仲間／ハエ目：ガガンボの仲間、ユスリカの仲間、タマバエの仲間の虫こぶ（ヨモギ）／カメムシ目：ヒメホシカメムシ、カスミカメの仲間、アオバハゴロモ、ツクツクボウシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ／ ／バッタ目：オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ヒナバッタ、イボバッタ、コバネイナゴ、ハネナガイナゴ？、クビキリギス、ウスイロササキリ、アオマツムシ、カネタタキ、ミツカドコオロギ、モリオカメコオロギ、ハラオカメコオロギ、エンマコオロギ、ツヅレサセコオロギ／カマキリ目：ハラビロカマキリ、オオカマキリ／ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ／ハサミムシ目：ハサミムシの仲間／アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ（幼虫）

【花】
草の花　キク科：ハキダメギク、ハルノノゲシ、アキノノゲシ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ／トウダイグサ科：コニシキソウ、ニシキソウ、エノキグサ／ツユクサ科：ツユクサ／スベリヒユ科：スベリヒユ／タデ科：イヌタデ、オオイヌタデ、ミズヒキソウ／ハエドクソウ科：ハエドクソウ／マメ科：シロツメクサ、クズ／ブドウ科：ノブドウ、ヤブカラシ／キツネノマゴ科：キツネノマゴ／アカバナ科：アカバナユウゲショウ／アカネ科：ヘクソカズラ／ カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ／クマツヅラ科：クマツヅラ／イネ科：エノコログサ、セイバンモロコシ、コブナグサ／カヤツリグサ科：カヤツリグサ
木の花　マメ科：ヤマハギ／ミソハギ科：サルスベリ／アオイ科：ムクゲ

観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは
「地面の上の落とし物」でした。
地面に落ちたものを食べて暮らしている小さな生き物たちの観察から、生態系の中の「分解者」の役割を考えることができました。

今月の案内人　竹本周平さん　石原直子さん

❶車の陰で休んでいた
ハクセキレイ

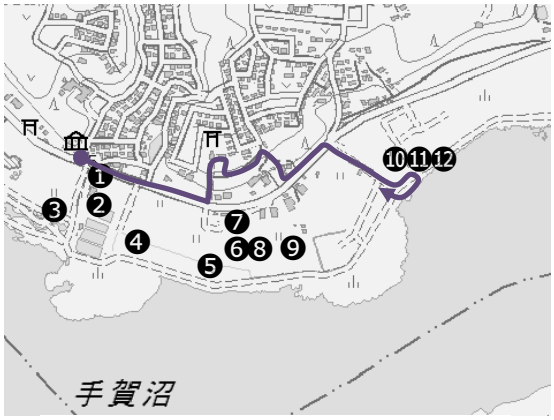
❷電線の下に落ちていた
カラス類？のペリット

❸落ち葉についていた
キセルガイの仲間

❹石の下から出てきた
ゲジ

❺ツバキの葉の裏の
菌類の子実体

❻落ち葉の中にいたオカダンゴムシ。
私たちの身近に見られるダンゴムシは
ほとんどがヨーロッパ原産の本種。



歩いたルートと観察した生き物

❼たまった落ち葉の中にいたフトスジミミズ。落ち葉を食べて糞に分解する重要な役割を担っている。

❽落ち葉の中にいた
ワラジムシの仲間

❾落ち葉の中にいた
マクラギヤスデの仲間

❿神社の境内に落ちていた
ヒヨドリの尾羽

⓫林の地面に落ちていた
ミンミンゼミの死体

⓬ヨモギについていた
タマバエの仲間の虫こぶ

今月の鳥　ハシボソガラス　スズメ目カラス科

ハシボソガラスは、日本で普通に見られるカラス2種のうちの一つで、北海道から九州まで広く分布しています。もう1種のハシブトガラスよりも小型で嘴が細く、田んぼや畑、海岸など、より開けた環境を生息地として好みます。地上を歩いて餌を探すことが多く、雑食性でなんでも食べますが、特に他の生きものの死体を好みます。ハシボソガラスのように、他の生きものの死体を食べる生き物はスカベンジャー（掃除屋）と呼ばれます。日本産の鳥では、他にトビや大型のワシ類、カモメ類などがスカベンジャーに該当します。これらの鳥たちは、大型の生物の死体を食べて分解されやすい形に変えることで、その栄養を他の生きものたちが使える形にする役割を担っているのです。

成鳥(左)に餌をねだるハシボソガラスの巣立ち幼鳥